

医療の質と安全さらに向上へ

医師・看護職員ともにレベルアップへ体制整備

阪大病院では4月1日付で、新病院院長に林紀夫教授が、新看護部長には、副看護部長の平山三千代が就任しました。林・新病院院長は、消化器内科が専門です。これからの阪大病院の診療や看護のあり方について、語り合っていました。

新病院院長 看護部長対談

林 大学病院は、治療成績や新しい治療法の開発だけではなく、安全性も含めた医療の質で評価されます。阪大病院はこれまでも全国でトップレベルの評価をいただけてきました。医療の質と安全を向上させていかなければなりません。

平山 そうですね。看護部は、高度先進医療に応じた専門性の高い看護を実践するとともに、心のこもったあたたかみのある看護を目指して努力してきました。病院の顔として、自信をもち生き生きしている凛とした姿勢が患者さまの目に映れ、うれしく思います。

林 これからの病院のために、看護の質の向上は大いに期待しています。ところで、平成19年度には診療報酬改正に伴って多くの看護職員が採用されました。病院としても「7対1看護」の取得に力をいれ、支援していきたくと思っています。

平山 ありがとうございます。看護のレベルアップには、看護職員の教育システムの充実が欠かせません。看護職員が一人前になるには、自己研鑽や職場でのトレーニングが欠かせませんが、本院看護部では、それに加え看護実践能力に必要な研修を行っています。

林 看護職員が増加するにつれ、看護のレベルもアップしたと私も感じています。

林 阪大病院は今後もますます専門性の高い診療を行っていきたく、それにはチーム医療が不可欠です。専門的な知識を持った医師、看護職員、他の医療者がチームを組み、ともに患者さまの医療に携わることが大変重要です。医療者がその専門性を生かし、切磋琢磨することにより、医療・看護の質が向上することになります。そこには何よりもコミ

平山 看護職員の増加により、これまでに比べ「より手厚い看護」を実践していきたいと考えています。患者さまの期待に応えることのできる病院とすべく、病院職員が丸ごと努力する所存です。

林 阪大病院は今後もますます専門性の高い診療を行っていきたく、それにはチーム医療が不可欠です。専門的な知識を持った医師、看護職員、他の医療者がチームを組み、ともに患者さまの医療に携わることが大変重要です。医療者がその専門性を生かし、切磋琢磨することにより、医療・看護の質が向上することになります。そこには何よりもコミ

林 医師の質もアップするように、研修医の教育制度も高度な研修ができるように改革していきます。また、中堅の医師の質を向上させるために卒業研修制度も充実させていきます。医師と看護職員のレベルアップによって阪大病院の医療の質を向上させ、より安全な医療が行えるようになることを考えています。

平山 看護職員が増加により、これまでに比べ「より手厚い看護」を実践していきたいと考えています。患者さまの期待に応えることのできる病院とすべく、病院職員が丸ごと努力する所存です。

林 阪大病院は今後もますます専門性の高い診療を行っていきたく、それにはチーム医療が不可欠です。専門的な知識を持った医師、看護職員、他の医療者がチームを組み、ともに患者さまの医療に携わることが大変重要です。医療者がその専門性を生かし、切磋琢磨することにより、医療・看護の質が向上することになります。そこには何よりもコミ

林 医師の質もアップするように、研修医の教育制度も高度な研修ができるように改革していきます。また、中堅の医師の質を向上させるために卒業研修制度も充実させていきます。医師と看護職員のレベルアップによって阪大病院の医療の質を向上させ、より安全な医療が行えるようになることを考えています。

新病院院長あいさつ

国立大学法人化後の厳しい医療情勢の下で阪大病院は日本でも有数の先進医療開発病院として発展してまいりましたが、今後も地域の中核病院としての幅広い医療活動を行いながら先進医療開発病院としての機能強化を図ります。各診療科、各センター、中央診療部門の診療内容を充実させるとともに、医療の安全対策を強化し、患者さまのニーズ

に臨床試験部を設置します。活性化および充実はその基となるべく、病院職員が丸ごと努力する所存です。など診療専門別センターの設置を推進することにより、患者さまのニーズに対応した診療機能を充実させ、リタイマネジメントについて

一層信頼される病院に

に臨床試験部を設置します。活性化および充実はその基となるべく、病院職員が丸ごと努力する所存です。など診療専門別センターの設置を推進することにより、患者さまのニーズに対応した診療機能を充実させ、リタイマネジメントについて

に臨床試験部を設置します。活性化および充実はその基となるべく、病院職員が丸ごと努力する所存です。など診療専門別センターの設置を推進することにより、患者さまのニーズに対応した診療機能を充実させ、リタイマネジメントについて



新病院院長と看護部長の対談の様子。



新病院院長 林紀夫教授



新看護部長 平山三千代

看護配置「7対1」の認定に向けて

阪大病院では手厚い看護をするために今年4月に230人の看護師を採用しました。昨年4月の診療報酬改定で新設された一般病棟入院基本料の看護配置「7対1」の認定を受ける準備を整えています。

社団法人日本看護協会によると昨年10月1日現在、「7対1」を取得した施設数は549施設で、総届け出病床の15.5%でした。そのうち特定機能病院は16施設でした。

患者さまに満足していただける看護を提供するためには、採用後の新卒者、経験者の育成と職場定着が大きな課題です。新採用者は採用後、全員で病院、看護部のオリエンテーションを受け、新卒者は看護技術の研修を受け3週間

後に各臨床現場に配属されます。その後は先輩の看護職員とともに臨床での経験を積んでいくことになります。

今年度の採用者は産科、小児科領域、ハートセンターなどを含めた特定機能病院としての機能を維持し、昼夜を問わず高度先進医療、移植医療を受ける患者さまに対し、安全で質の高い24時間の看護を保証するために配置します。

新卒者を含めた新採用者の行う看護ケアに対しては、十分に訓練し指導を行います。新採用者の職場適応・成長のために、患者さま、ご家族の方々、職員の方々が温かく見守っていただければ幸いです。

健やかな老後を

高齢者の病気に幅広く対応

老年・高血圧内科

高齢者が訴える症状への対応は「一筋縄ではいきません。阪大病院の老年・高血圧内科では高齢者の病気に多角的な診断、治療を多角的に行うとともに、予防医学の考え方を取り入れ、健やかな老後を送れるよう、生活の質を向上させることにも力を入れています。

高齢者は高血圧や糖尿病など複数の病気がかかっていることが多く、65歳以上の前期高齢者であっても、加齢（年をとること）によって筋力や視力など生理的な衰えが原因となつて、「関節が痛い」「なんとなくだるい」



このような高齢者が病院に行った時に、いくつかの診療科を回らなければならぬ可能性が高くなり、患者さまにとって負担になります。子どもの病気が小児科があり、子どものほとんどの病気に

途上の診療科です。超高齢社会になり、高齢者が健康で長寿を全うできるようなことが、老年科の大きな役割だと考えています」と話しています。

「人は血管とともに老いる」と言われています。高血圧に伴う血管の老化を超音波診断装置を使った非侵襲的検査によって明らかにし、合併症の診断、予防に役立てています。

また、高齢者に特有な老年症候群と呼ばれる症状について原因を突き止めるために、他科と同様の検査、診断、治療に加えて高齢者総合的機能評価(CGA)を実施しています。CGAは視力や聴力などはもちろん、食事や入浴など日常生活における動作(ADL)、社会的、経済的な環境、精神的な状態や認知機能などを調べています。

同科では高血圧などの生活習慣病から認知症や失禁、ふらつきなど高齢者特有の病気に幅広く対応しています。高血圧については、ホル

中、心筋梗塞、感染症などによる重篤な症状の患者さまを受け入れる阪大病院の高度救命救急センター。日本救急医学会の専門医を中心に全診療科が協力して、救命活動に全力を尽くしています。

センターの前身は1977年に開設された阪大特殊救命部。日本における初めての重症救急専門施設で、NHKの人気番組だった「プロジェクトX」にも取り上げられ、全身に大げな重傷患者さまを救うための医師らの苦闘が描かれていました。



使用して、困難な症例にも立ち向かっています。また、大きな自然災害や事故のときに、京阪神の救急医療の拠点としての役割を果たしています。

「臨床に学ぶ」という特殊救命部時代からの伝統は引き継がれており、患者さまのデータをもとに新たな治療法の開発にも力を入れています。

重症頭部外傷に対して、体温を下げ、脳へのダメージを軽減して治療を行う脳低温療法

「栄養マネジメント部は、病院食について、入院患者さまを対象にアンケート調査を行いました。アンケートは、計700人(一般治療食553人、特別治療食147人)に行い、回収率は、一般治療食67.1%、特別治療食73.5%でした。アンケートでは、主食・主菜の味や満足度などについて、また、一般治療食の選択食や特別治療食について、患者さまがどのように考えておられるか調査を行いました。

最新の64マルチスライスCTII写真など最新鋭の医療機器やドクターヘリの導入を進めるとともに、発生を想定したシミュレーションにより、味付けを薄く感じられた患者さまが比較的多い、ということから、「日常生活での塩分のとり過ぎに注意する必要があります。私たちが考えを伝える必要があることを確認できました。

今後、栄養マネジメント部では、病院食を通じ、入院患者さまやご家族の皆様を対象に、生活習慣病を予防する食生活や「食育」、治療食の食事療法について伝えることができると考えています。

日本初の伝統誇る 京阪神の救急医療拠点

現在でも年間8000件近い急性疾患や外傷の重症患者さまを近畿圏だけでなく、北陸、中四国からも受け入れています。これまでに培ってきた経験と先端の医療技術、機器を駆

使して、困難な症例にも立ち向かっています。また、大きな自然災害や事故のときに、京阪神の救急医療の拠点としての役割を果たしています。

「臨床に学ぶ」という特殊救命部時代からの伝統は引き継がれており、患者さまのデータをもとに新たな治療法の開発にも力を入れています。

重症頭部外傷に対して、体温を下げ、脳へのダメージを軽減して治療を行う脳低温療法

「栄養マネジメント部は、病院食について、入院患者さまを対象にアンケート調査を行いました。アンケートは、計700人(一般治療食553人、特別治療食147人)に行い、回収率は、一般治療食67.1%、特別治療食73.5%でした。アンケートでは、主食・主菜の味や満足度などについて、また、一般治療食の選択食や特別治療食について、患者さまがどのように考えておられるか調査を行いました。

今後、栄養マネジメント部では、病院食を通じ、入院患者さまやご家族の皆様を対象に、生活習慣病を予防する食生活や「食育」、治療食の食事療法について伝えることができると考えています。

先端がん診療シリーズ第2回 市民公開フォーラム参加者募集

阪大病院の「がん診療市民公開フォーラム」の「先端がん診療シリーズ第2回」を6月23日(土)午後1時~4時、大阪大学医学部講義棟A講堂で開催します。

講演内容は①阪大病院のがん診療への取り組み：化学療法部、水木満佐中央部長②我が国に多いがんの最新治療(1)子宮がん：産科婦人科、木村正科長(2)乳がん：乳腺・内分泌外科、野口眞三科長③がんの放射線療法—最近の進歩—：放射線治療科、井上武宏科長④質問コーナー 定員250人。参加無料。申し込みは、往復はがき(1通につき1名)に必要事項(氏名、住所)をご記入の上、6月1日必着で下記へお申し込みください。ご参加いただける方には参加票(返信はがき)を送付致します。当日質問事項(講演関連のもの)のある方は、同じはがきに内容をご記載下さい。

〒565-0871 吹田市山田丘2-15 大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係内 市民公開フォーラム係

問い合わせは同係(TEL:06-6879-5020)。※申し込みされた方の個人情報には参加に伴う連絡、当日の質問への回答にのみ使用します。

第1回は定員オーバーの盛況

阪大病院の第1回「がん診療市民公開フォーラム」が2月3日、医学部講義棟A講堂で開催されました。定員200人を大幅に上回る252人が参加されました。

講演は、阪大病院におけるがん診療システムの現状や、我が国に多い肝臓がんや肺がんについての最先端の治療、阪大病院で開発されている治療、PET、PET-CTを用いた画像診断などを、それぞれの専門家がわかりやすく解説しました。

多くの受講者の方々から、ご自身やご家族の病状についての質問をはじめ、がんの標準的な治療法から免疫療法や補完代替医療にいたるまで幅広い内容の質問がされ、活発な討論がなされました。

ローソン、スタバがオープン

阪大病院に24時間営業のコンビニとして「ローソン阪大病院店」と患者さまやご家族、見舞い客などの憩いの場となる喫茶コーナー「スターバックス阪大病院店」が阪大病院の支援法人である(財)恵済団の協力によって、このほどオープンしました。



また、スターバックスそばのライトコートデザインアップ=写真=、多くの利用者にゆったり腰掛けてコーヒーや軽食をとっていただけるスペースとしました。入院中の方はもちろん、外来患者さま、ご家族、見舞い客の皆様方に利用していただければ幸いです。

病院ボランティアが10周年

阪大病院での病院ボランティアの活動が10周年を迎えました。病院ボランティアは中之島地区から吹田キャンパスに移転したのを機に、病院職員の手の届かない部分を地域のボランティアの人々に助けていただき、患者さまや家族に「ホッとした和み」を感じていただきたいと、1996年に導入しました。

阪大病院ボランティアの会の愛称は「ふれ愛」。60人でスタートした会員は徐々に増加し、現在では80人近くになっています。

活動範囲は、主に外来患者さまの案内・誘導、入院患者さまの食事などの手助け、中央診療施設での患者さまへの誘導などです。平成17年には患者図書コーナーを運用、18年には待望のボランティア・コーディネーターが配置され、ますますの活動が期待されます。

PET-CT検査棟が完成

阪大病院に、がんの診断などに威力を発揮する最新のPET-CT(陽電子放射断層撮影装置)2基を設置したPET-CT検査棟が完成しました。4月2日から悪性腫瘍診断、循環器疾患、中枢神経系疾患の保険診療を開始しています。

検査はすべてオープン予約で行い、画像は院内画像サーバーを通じて電子カルテにより各診療科で読影でき、診療の効率化を図っています。

これまでは年間1000例ほどだった検査件数も、看護部や放射線部の支援を受け大幅に増加できます。検査棟は患者さまや医療従事者の放射線被曝を最小限にできるよう最大限の配慮がなされています。

ホスピタルニュース

